

子どもの泉

子どもの泉 第38号
2016年10月1日発行

京都造形芸術大学
芸術文化情報センター
ピッコリー



〒606-8271
京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL: 075-791-8013
FAX: 075-791-3318
<http://www.piccoli.jp/>



絵本の海 豊かな原体験を子どもたちに

雨がしとしと降る6月のある日、こども芸術大学で「絵本の海」という活動を行った。ホール一面に大きな海のようにびっしりと絵本を敷きつめ、その日は1日どっぷりと絵本に浸るのだ。ホールの扉を開け、そこに広がる光景を目の当たりにした子どもたちから歓声があがる。「あっ、これおもしろそう」「こんな絵本あったんだ」絵本の波間を漂いながら、子どもたちはさまざまな絵本と出会っていく。読みたい絵本が決まると、それぞれに読書の時間がはじまる。お母さんのお膝の上で読んでもらう子や、人静かに絵本と向き合う子、友だちや職員と一緒に絵本を読む子もいる。いろいろな絵本といろいろな読書のかたちと出会う。絵本を読んだ後は自分のおすすめの本を選び、どんなところが好きで面白いと感じたのか考えてもらう。そしてそれを本屋さんのPOPのように紙に書き、絵本に貼っていった。子どもたちとお母さんによるPOPを少し紹介してみよう。

- 「まっかつかのページがあります」…『タンタンのハンカチ』（借成社）
- 「かばってくちのなかってどうなってるんだろ」…『かばくん』（福音館書店）
- 「ももちゃんってかわいいね」…『ちいさいももちゃん』（講談社）
- 「息子が年少の時にとても気に入って嵐の絵を毎日描いていた思い出の本です」…『空の絵本』（講談社）
- 「ぐっときます。すてきなふたりのおはなし」…『ととときのとつかえっこ』（童話館）

POPを貼り付けた絵本は窓辺に飾っていく。山の緑を背景に、みんなのお気に入りの絵本が並んだ。POPを読んでいくと、こども芸術大学に集う一人ひとりの感じ方や考え方が表れており、これがとても面白い。日常の一コマかも知れないが、こうしたささやかなところから人に気持ちを伝えてみたり、相手の考えを知ったりと、相互理解が深まっていくのだろう。

この「絵本の海」の活動は今から4年前、当時年中の女の子が「こども芸大の絵本はもう全部読んだ」とお母さんに言ったことから始まった。そのお母さんはまだ子どもが手にとっていない絵本があるはずなので、そうした絵本と出会うきっかけを作りたいと思い「絵本の海」を企画された。こども芸術大学の絵本コーナーには常時800冊以上の本があり、本棚には背表紙がずらっと並んでいる。いつもは背表紙を頼りに絵本を選んでいるが、この活動では絵本の顔とも言える表紙で埋め尽くされた空間自体を楽しみ、背表紙だけでは発見できなかった新しい絵本との出会いを生んだ。

その親子が卒業した現在も「絵本の海」はこども芸術大学で大切に継承されている。梅雨や冬の寒い時期になると「そろそろアレ、やりませんか」とわくわくした表情でお母さんから提案が出てくる。「おっ、いいですね」と職員もそれにのる。絵本もほかの遊びもそうだが、大人の遊び心といつもと少し視点を変えたアプローチが、子どもたちの心に残る原体験を作っていくのだと思う。

村井 明香里 (むらいあかり)

京都造形芸術大学
こども芸術大学 芸術教育士

1986年生まれ。京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻卒業。
在学中より造形アトリエにて絵画・造形表現を3～12歳の子どもたちに教える。4年間の造形アトリエ講師を経て、現職につき6年目。

特集

「ピッコリーの選書」



ピッコリーの蔵書数は、2016年7月現在18,000冊ほどです。この冊数は、学校図書館法で定められた13学級の小学校の標準よりは多いのですが、館の規模は、近隣の小学校の図書室とそれほど変わりません。一方で市立図書館の蔵書は、左京図書館の児童書だけで23,000冊、京都市図書館全体の児童書では567,000冊以上。その差は歴然としています。

そんな小さなピッコリーなので、どんな本を棚に置くかということには心をくぐります。0歳から中学生までを対象に、「永く読み継がれる本」という選書方針のもと、蔵書にする本は、歴代のスタッフが必ず目を通してきました。

読み継がれる本をどう見分けるか、実のところ、明文化できるわけではありません。しかし、文章や絵が良質と判断できるものが基本となります。自費出版本を寄贈されることがありますが、多くの場合、蔵書になりません。ディズニーアニメなど映像を再編した本も入れません。優れた映像作品は原作映像のまま出会ってほしいからです。同様に、抄訳を入れるときも厳選します。例えば、長いことで有名な『ガリヴァー旅行記』には数多くの版がありますが、児童書として信頼できるものを探し所蔵しています。

そのような選書を経たピッコリーの棚は、必然的に、定評ある出版社の定評ある作家が中心となります。ロングセラーが好まれる絵本のラインアップはとても充実しています。けれど、一時的な流行を追わないので、時事もの…例えばスポーツ選手の著書やドラマ放映にあわせた歴史もの、ライトノベルなど…は蔵書になりにくく、高学年以上の子もたちには物足りないでしょう。そんな時はより大きな図書館につなぎ、予約やリクエストの制度があることを伝えます。ピッコリーが果たす選書の役割を大切にしたいと思うからです。

子どもの読書がよく食事にたとえられるのをご存知でしょうか。名作は、味も栄養も優れた主食としてこの上ありませんが、人生にはお菓子の楽しみも欠かせませんし、たまにはジャンクフードを食べたいときもあるでしょう。そのすべてが子どもたちに必要なのだと考えています。子どもたちから「面白い本な～い？」とよく聞かれますが、ピッコリーの蔵書は面白い本ばかり。しかし、食べたいものが日々つりかわるように、ピッコリーの宝の山の中から、その子が今ほんとうに求める「面白さ」を見つけ出してもらいたいです。その手助けができるようにと願いつつ、わたしたちスタッフは今日も子どもたちの来館を待っています。(大橋)

ピッコリーの蔵書ができるまで

1 図書館に入れたい本の候補を選ぶ

スタッフそれぞれが、蔵書にしたい本の候補を挙げ、リストを作ります。取次会社が発行する「ウィークリー出版情報」や、出版社からの新刊案内に目を通しますが、それだけでなく、館内での問い合わせや人気の作家など、利用者のみなさんの声も参考にします。

2 書店に「見計らい本」を注文

リストを書店に送り、本を取り寄せてもらいます。この時点では買うかどうか決まっています。このように、選書のために現物の本を取り寄せることを、図書館では「見計らい」と呼びます。



3 「見計らい本」を読む

リストの本が届いたら、すべての本に目を通し、スタッフそれぞれが○△×で採点します。◎はぜひ入れたい本、×は入れたくない本で、その理由も簡単に書いて記録に残します。

みんなのひろば

アンケート「好きな本との出会い」
みんなの好きな本と、それをどうやって見つけたかを教えてください！



『100かいだてのいえ(ビッグブック)』(偕成社)
ピッコリーにある1m程の大きな本を見つけ、
1人で読みながらめくるのが楽しくて気に入っています。
*3才男児とお母さん

『うちにかえたガラゴ』(文楽堂)
図書館ですすめてくださった。
*6才女児とお母さん

『たこのななちゃん』
(徳間書店)
おかあさんがかりてきてくれた。
*5才女児

『ようこそ！おやこ寄席へ：
落語で広がる笑いの輪』
(岩崎書店)
お母さんが図書かんでかりてきた。
*10才男児

『アンジェリーナはじめてのステージ』(講談社)
バレエのすきなおともだちが、おしえてくれました。
*5才女児とお母さん

『このあとどうしちゃう』(ブロンズ新社)
本やさんで見つけて、かってもらった。
*7才女児

『北の森の十二月：スラトコフの自然誌(上)(下)』
(福音館書店)
おかあさんが見つけてかりて来てくれた。*10才女児



コラム 学校図書館での選書

一年間、中高一貫校で図書館司書として勤務した経験があります。利用する生徒や教員が必要な資料を得られるよう、また本に興味を持ってもらえるように選書を行いました。学校ではピッコリーと異なり、図書館に来る生徒が少しでも多くなるように話題の図書はできるだけ購入するようにしています。メディア化された小説や人気の図書などを、書店をまわったりインターネットでチェックしていました。調べ学習で利用される図書については、教員に一年間で図書館を利用する授業があるかどうかアンケートをとり、それに基づいて必要な資料の選書を行います。図書館は学校における情報提供の場なので、調べ学習で利用される図書の内容が古くなっていないか注意し、古くなっていれば新しい資料に買い替えることも重要でした。

生徒や教員との会話や貸出からは、興味・関心や、求められている本を知ることができ、選書の際にとっても参考になります。教員と話していて「部活動のメニュー作りで参考になる本がないか探している」と聞いたときは、筋力トレーニング等の本を入れるようにしたり、生徒が「西尾維新さんの本がおもしろい!」と教えてくれたときはその著者に注目します。「図書館に行けば興味のある本が見つかる」と思ってもらえるよう、利用者とのコミュニケーションは必要だと実感しました。

出版されている多くの本の中から、図書館に置くことができる本はごくわずかです。図書館を有効活用してもらえような蔵書構成にするために選書は重要で、難しい仕事だと感じています。(伊藤)

4 選書会議

3の採点を参考にスタッフで相談し、一冊づつ、購入するかどうかを決めます。だれかが×をつけた本や、意見が分かれた場合は、購入しないようにしています。どの棚に置くかの「分類」もここで決めます。購入しなかった本は返品します。



5 目録・装備

本の情報をパソコンに入力する「目録」の作業、本に蔵書印を押したりラベルを貼ったりする「装備」の作業をします。難しい仕事なので、大学図書館には、目録・装備の専門のスタッフが配置されています。



6 できあがり

毎月25日に、ピッコリーに新着図書が並びます。どんどん借りてね!

『もりのおかしやさん』
『もりのおべんとうやさん』(偕成社)
ピッコリーで見つけて、本の表紙の絵が可愛くて楽しそうで、シリーズで借りて読むようになりました。
*6才女児とお母さん

『ルルとララのクリスマス』(岩崎書店)
がっこうのせんせいにおしてもらった! *6才女児

『サンタクロースはおもちゃはかせ』(文溪堂)
おかあさんがかってきておもしろかったから。
*9才女児

『三国志』(出版社不明)
がっこうのとしょ室で
みつけた。 *7才女児

『かいとう・ちわわんだー』シリーズ(集英社)
がっこうのところのとしょかんでかいた。
*6才女児

『二分間の冒険』(偕成社)
学校でてきとうにたくさん
読んでたらあった!
*10才女児

『せんせいマツアオこわーい話』(岩崎書店)
この本は、「こわい」って、書いてあるけど、
こわいのと、こわくないのがある。なぜえら
んだかと言うと、おもしろい事が書いてある
から、自分でえらんだ。 *9才女児

『ミリー・モリー・マンデーのおはなし』
(福音館書店)
ピッコリーのお姉さんにオススメされて
読みました。 *お母さん

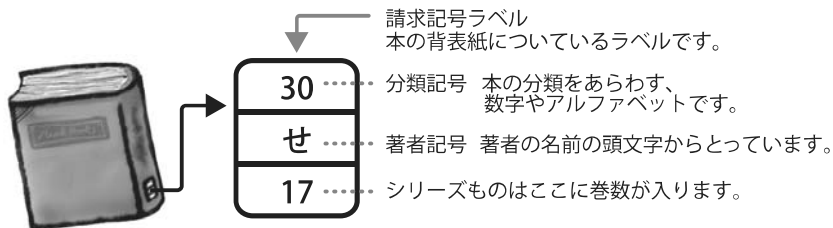
『ねぼすけスーザとやぎのダリア』
(こどものとも438号)』(福音館書店)
ピッコリーで見つけた。 *6才女児



ピッコリーのおすすめ本



分類【分類記号】のご紹介とともに、それぞれからとっておきのおすすめ本をピックアップ。比較的新しいけれど、これからも永く愛されそうな、スタッフの思い入れの深い本を選びました。



あかちゃんえほん【EB】

ピッコリーでは、0～3歳むけの本を、物語／知識／和洋とりまぜ「あかちゃんえほん」のコーナーに置いています。読み語りは、赤ちゃんとのコミュニケーションや気分転換になるため、視力がつきお座りも安定する5ヶ月くらいから、おすすめです。とはいえ、赤ちゃんが「本」という存在を認識するまでには時間がかかりますから、無理はしないこと。初めのうちは、文のリズムがよく、無地の背景に具象物が描かれたシンプルなもの、理解されやすいでしょう。でも難しく考えず、赤ちゃんを読み手が気に入る本ならそれでOK。赤ちゃんにとっては、生の声で語りかけてもらうこと自体が喜びであり、成長を促すものだからです。絵本はそのための便利なツールです。

『おつきさまこんばんは』
林明子／さく 福音館書店【EB／は】
表紙に描かれている、大きく光輝くおつきさまが印象的です。ページが変わるごとに変化のおつきさまの顔は、まるで赤ちゃんのよう。「こんばんは」という言葉が優しく響き、読んでいて穏やかな気持ちになります。



『ぼんちんぱん』(0.1.2. えほん)
柿木原政広／作 福音館書店【EB／か】
ぱんぱん、しょくぱん、ぼんちんぱん。ちぎったところが目や口になり、おなじみのパンがにっこり笑いかけてきます！わらべうたのように軽やかな写真絵本。赤ちゃんにぴったりの月刊誌『こどものとも0.1.2.』からのハードカバー化です。

にほんのえほん【EJ】 がいこくのえほん【EF】

絵本は、「絵」と「文」とで構成される二次元の総合芸術。絵本の「絵」から読者は様々なものを読みとりますが、その面白さは、同じ本でも「文」を読んで得られる感動とは大きく異なるものです。ピッコリーの選書では、その一冊が「絵本作品」として優れているかどうかを判断します。「画家」の名前のあいうえお順で並べるところも、芸大ならではのいえるかもしれません。現代では、子どもに限らずあらゆる年齢にむけた、様々なジャンルの絵本が、豊かに出版されています。例えば、ここに挙げた「ばばあちゃん」シリーズは、物語だけでなく科学のラインアップもおすすめですよ。



『むねがちくちく』
長谷川集平／作・絵 童心社【EJ／はせ】
ある日、ちょっとした行き違いから「わたし」はリリちゃんとケンカをしてしまいます。大人でも子どもでも、仲直りの方法は同じ。電話やメールではなく、直接目を見て伝えることがなにより大切だと教えてくれます。



『たいへんなひるね』
さとうわきこ／さく・え 福音館書店【EJ／さと】
いつでも豪快なばばあちゃんが、外でお昼寝をするためにすごい方法で季節を冬から春に変えてしまいます。周りの動物たちも巻き込んで、ゆかいで楽しく自由に暮らしているばばあちゃんに元気がもらえます。



『まるまるまるのほん』
エルヴェ・チュレ／さく たにかわしゅんたるう／やく ポプラ社【EF／てゆ】
黄色いまるを押してみると…まるが二つにふえた！右のまるをこすってみると…黄色が赤にかわったよ！読者にアクションをうながしながら展開する参加型作品。読み語りでは大さわぎになりますが、絵本の可能性を感じるシリーズです。

にほんのおはなし【9YJ】
 がいこくのおはなし【9YF】
 日本の文学【9J】
 外国の文学【9F】



物語の本は、4年生以下向けを「おはなし」、4年生以上向けを「文学」として、「作家」の名前でいうえお順に並べています。学年はあくまで目安として、自由に読んでいただければと思っています。なお、分類記号のYは幼年、JはJapan(日本)、FはForeign(外国)を意味しています。

幼年文学では、身近なテーマや洗練された文章が求められるのに対し、年齢が上がるほど、世界観も文体も複雑な作品を楽しめるようになります。とくに高学年からは、本を通じて考えを深める機会が増えるのではないのでしょうか。人は、言葉によってものごとを考えます。物語を通じて多くの言葉を体得することが、よりよく考えて生きることにつながるのだと思います。



『アーモンド入りチョコレートワルツ』
 森絵都／作 いせひでこ／絵
 講談社【9J／も】

三つのピアノ曲から生まれた三つの物語。子どもは大人が気づかない場所で、悩んだり傷ついたりしています。戸惑いながらも自分自身で考え行動し、ゆっくりと大人に成長していく子どもたちの優しい物語です。

『こぶたのピクルス』
 小風さち／文 夏目ちさ／絵
 福音館書店【9YJ／こ】

絵本から文字の本への移行期にぴったりな、読み語りのできる短編集です。学校に通いはじめたくらいの年齢のピクルスが活躍する、4つの身近なおはなし。『エルマーのぼうけん』(福音館書店)『ふたりはともだち』(文化出版局)といった名作とあわせてどうぞ。



『マチルダはちいさな大天才』

ロアルド・ダール／著
 宮下嶺夫／訳
 ケンティン・ブレイク／絵
 評論社【9YF／だ】

マチルダは小さいながらも頭の回転が早く、とてもかっこいい女の子。両親にひどいことをされても校長先生に理不尽なことを言われても、決して泣いたりせずに頭を使って対抗します。マチルダの行動力とアイデアに驚きの連続です。

『宝島(新版)』(岩波少年文庫:528)

スティーヴンソン／作
 海保真夫／訳
 岩波書店【9F／ず】

自国と異なる文化、日常生活とかけ離れた空気を味わえるのが、翻訳文学の魅力。十代前半の主人公ジムの目線のみ、18世紀英国の海賊の世界は、現代の映画やアニメに大きく影響しました。賢く教養のある悪役ジョン・シルバーに魅了されます。



知識の本【0～8】

多くの図書館と同様、ピッコリーでも「NDC(日本十進分類法)」に基づき、物語(9類)ではない本を、知識の本(0～8類)に分類します。0類は総記、1類は哲学、2類は歴史、などなど。4類の自然科学のうち41は数学、42は物理学…といった具合に、細かく分類するほど桁数が多くなりますが、ピッコリーでは2桁におさめています。形態が絵本でも、物語でないものは知識に分類します。

物語を読むことだけが読書ではありません。本が嫌いでも図鑑は好きという子は少なくありません。そんな子たちの興味を、現実と地続きに存在する科学読み物につなげたい。そこにはあらゆる人の営みが記されており、未来へすすむ子どもたちにとって、人生の手がかりとなるに違いありません。



『イスラエル:小さな芸術家シラ』
 (世界のともだち17)

『パレスチナ:聖なる地のルールデス』
 (世界のともだち18)

どちらも村田信一／写真・文 偕成社【30／せ】

写真家が世界の子どもたちを撮影し、普段の生活を紹介するシリーズ。この巻では未だ紛争が続いているイスラエル、パレスチナを訪れ、そこに住む二人の女の子を取材します。どちらに住む女の子も学校へ通い、自分の好きなことに熱中し、毎日楽しく生きています。ニュースの映像だけではわからないことを教えてください。



『うまれたよ!ボウフラ』
 (よみきかせいきものしゃんえほん27)

中瀬潤／写真・文 岩崎書店【48K／な】

生き物の絵本は近年めざましく進歩しています。ボウフラが蚊になることを知ってはいても、その脱皮の瞬間など目にしたことがありますか?「うまれたよ!」の名のとおり、必ず誕生の様子がわかるシリーズ。蝶や甲虫、両生類の巻もあり、現在全30巻です。

※これらの他に、38:むかしばなし、91:詩、G:がいこくの本(洋書)、R:じてん の分類もあります。また、大人向けの本として、B:子どもの本、C:子どもの文化、K:子どもの教育、S:その他 という独自の分類も使用しています。

2015 年度活動報告

運営概況

◆ 開館実績 ◆

	2014 年度	2015 年度
開館日	木～土曜日 10:30～18:00 日曜日 10:30～17:00	木～土曜日 10:30～18:00 日曜日 10:30～17:00
開館日数	198 日	202 日
入館日数	11,881 人 (一日平均/60.0 人)	11,986 人 (一日平均/59.3 人)
貸出冊数	16,068 冊 (一日平均/81.2 冊)	17,463 冊 (一日平均/86.5 冊)

◆ 所蔵資料状況 ◆

資料数 18,291 冊	
児童図書	15,921 冊
成人図書	950 冊
外国絵本	964 冊
雑誌	304 冊(6 誌)
メディア資料	152 点

◆ 活動報告 ◆ ※ 参加人数は全て実数

1. おはなし会

毎週日曜15時半～16時に、ピッコリーのボランティアグループ「ピッコリーネットワーク（以下、ピコネット）」のメンバーとピッコリースタッフで、絵本の読み語りや手あそび、紙芝居などを開催。

● 実施回数：37 回 ● 参加人数：564 人



2. ブックトークの時間

ピコネットのメンバー主催で、毎月1回土曜15時半～16時、テーマに沿って、絵本や読み物、科学の本を紹介。

● 実施回数：11 回 ● 参加人数：105 人



3. おはなしクラブプー横丁

京都おはなしを語る会の主催。毎月1回、日曜15時半～16時、ストーリーテリングを中心に親子でおはなしを聞く機会を提供。

● 実施回数：12 回 ● 参加人数：187 人



4. ピッコリー映画上映会

芸術文化情報センター映像ホールを使用して、子ども向けの映画上映会（上映権付）を不定期に開催。各回10時45分より。参加費無料。

● 実施回数：10 回 ● 参加人数：140 人

<開催内容>

- 4月18日(土) NHKこどもにんぎょう劇場より「三びきのやぎのがらがらどん」ほか
- 5月2日(土) 「タンタンの冒険旅行 ななつの水晶球と太陽の神殿」
- 7月30日(木) 世界名作アニメーションより「シンドバットの冒険」
- 8月6日(木) 日本のおばけ話より「きもだめしのぼん」ほか
- 10月3日(日) 日本アートアニメーション映画選集より「かぐや姫」ほか
- 11月8日(日) 世界名作アニメーションより「長靴をはいた猫」
- 12月24日(木) NHKこどもにんぎょう劇場より「マッチウリの少女」ほか
- 1月10日(日) 「タンタンの冒険旅行 呪われた湖の謎」
- 2月11日(木) 世界名作アニメーションより「アーサー王物語」
- 3月31日(木) 世界名作アニメーションより「おやゆび姫」

5. 工作会

① 週末の工作会

子どもを対象に、ピコネット及びピッコリースタッフが講師となって土曜13時半～16時に開催。身近な材料を使ったアイデア工作を中心に企画し、毎回大勢の参加がある人気の催し。なお、9月19日は瓜山祭スペシャルとして行った。

●実施回数：34回 ●参加人数：932人

<開催内容>

- 4月 「カメラではいぢ～ズ!」「クルクルこいのぼり」
他全3回 参加人数76人
- 5月 「スーパー・コロコロ・お母さん」「さかさまレンズ」
他全3回 参加人数74人
- 6月 「カラフル!わたしのカタツムリ」「虹色コマ」
全2回 参加人数50人
- 7月 「七夕かざり」「おちないコップマジック」
他全3回 参加人数79人
- 8月 「うちわおばけ」「貝がらのいえ」
全2回 参加人数61人
- 9月 「チャレンジ!びっくりカード」「ちいさな秋のかざぐるま」
他全3回 参加人数84人
- 10月 「宇宙☆リレー」「森の木のぼり」
他全3回 参加人数76人
- 11月 「動物たちのあったかセーター」「パック☆ランタン」
他全3回 参加人数89人
- 12月 「さんかくフラッグ」「おはじき!ふくわらい」
他全3回 参加人数98人
- 1月 「ポリぶくろヨーヨー」「ふきぐるま」
他全3回 参加人数79人
- 2月 「ミニミニボックス」「あるペン・スキー大会」
他全3回 参加人数78人
- 3月 「ゆらゆらキャットタワー」「イースター・エッグ・マラカス」
他全3回 参加人数88人



6. トットクラブ

乳幼児と保護者対象の活動。「子育てに何かいいもの」をテーマに、木製のおもちゃで自由に遊んだり、手あそびやわらべうた、読み語りを行い、基本的に隔週金曜(月2回)ピッコリー館内で開催。また、0・1歳児とその保護者を対象とした「トットクラブ01」をこども芸術大学が開催した。

「トットクラブ」

●実施回数：24回 ●参加人数：394人

「トットクラブ01(ゼロワン)」

●実施回数：4回 ●参加人数：144人



7. おたのしみ会

① わくわくおたのしみ会

“人形劇団 ココン”を招いて人形劇を観劇。

●実施日：6月6日(土)11:00～12:10
●会場：NA102教室 ●参加人数：114人

<プログラム>

- 1. 腹話術「チュータとクッキー」
- 2. マリオネット人形劇「チャハ丸とへへ丸」



② クリスマス会

ピッコリー・こども芸術大学の共催で実施した。

●実施日：12月12日(土)10:30～12:00
●会場：こども芸術大学 ●参加人数：101人

<プログラム>

- 1. ペープサート「どっこいしょだんご」ピッコリースタッフ
- 2. ステージ「おんがくえほん」ふすま劇場
- 3. 歌「うたぶがこども芸大にやってきた!」<うたぶ>のみなさん
- 4. 工作会ワークショップ「毛糸であそぼう」こども芸術大学スタッフ



8. ボランティア講座

ボランティア説明会を開催し、趣旨に賛同し登録を希望する方に、児童図書館活動と造形活動についての講座を開催。造形活動についての講座は実際の工作会と連動して実施。

① ボランティア講座「子どもと本をつなぐ活動」

- 実施日：5月17日(日) 14:00～16:00
- 講師：ピッコリースタッフ
- 会場：映像ホール ● 参加人数：5人

② ボランティア講座「子どもと楽しむ造形活動」

- 実施日：5月23日(土) 13:00～16:00
- 講師：ピコネット 渡辺 千枝子さん
- 会場：映像ホール ● 参加人数：3人

9. その他の催し

瓜生山地蔵盆

- 実施日：8月22日(土) 10:30～15:00
- 会場：こども芸術大学 ● 参加人数：205人

<プログラム>

1. お地藏さんへお参り (こども芸術大学にて)
2. 修学院第二小学校「ドリームバンド」による演奏
3. 「アート屋台」こども芸術大学、通学部学生有志、ピコネット
4. 学生などによる出し物
ダンス「はなしにならん！」(ムロタムラ)
影絵「花さき山」(こども芸術大学お母さん有志)



そつぎょうてんをみにいこう！

- 実施日：3月5日(土) 10:30～
- 会場：京都造形芸術大学 ● 参加人数：16人



10. ピッコリーホームページ (<http://www.piccoli.jp/>)

2015年6月より、使いやすさと機能の向上のため、全面的にリニューアルを行った。以下主たる改善点。

- ・トップページから利用案内ページ等へのアクセスを改善
- ・トップページに開館情報を自動表示
- ・年間の開館スケジュールを掲載
- ・近辺地図/駐輪案内マップの改良
- ・English ページの追加

月別アクセス数

4月	5862	10月	6415
5月	5724	11月	5636
6月	7158	12月	5511
7月	7949	1月	5844
8月	7390	2月	5367
9月	6590	3月	5926

11. その他

● 見学

- ・立命館大学文学部 学生1名・教員1名 4月23日(木)
- ・三重大学教育学部 学生10名・教員1名 12月5日(土)

● 催事協力

- ・「左京子ども会写生会」主催：左京子ども会連合会
5月31日(日) 会場：京都市動物園 (学生参加協力)
- ・絵本作家マリット・テルクヴィストさんのワークショップ
11月17日(火) 主催/会場：こども芸術大学 (一般非公開)



- ・京都市子ども文庫連絡会 文庫学習会 (講師派遣)
「ピッコリーの工作会へようこそ！～文庫での工作遊び～」
2月8日(月) 10:00～12:00 会場：ひと・まち交流館 京都

● 取材

- ・MBS News 「Voice」 絵本作家かこさとしさんの特集への取材協力
8月2日(日) 取材、9月17日(日) 18:15～19:00 放送
- ・KBS 京都ラジオ 「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」
12月25日(金) 10:39頃～およそ10分間放送 (生出演)

編集後記 ((👧👧))

2015年度はスタッフの交代がありました。活躍してくれたお姉さんとのお別れは寂しい反面、新しいお姉さんたちと出会うことは喜びです。そんな矢先、七夕飾りの短冊に、「めぐみおねえさんとあやおねえさんが、長くピッコリーにいますように」という願い事を発見しました。直接口には出さないけれど、子どもたちも気にかけてくれていたんですね。どうもありがとう。スタッフは変わっても、ピッコリーの楽しさは変わりません。(大橋)